

ネットワークアンケート ①6

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院を受診中の糖尿病患者さんに、 高血圧を合併するリスクについて指導を行っていますか？

糖尿病の人は高血糖や肥満、インスリン抵抗性、糖尿病腎症などの影響もあり血圧が高くなりやすく、患者さんの2人に1人が高血圧を合併していると言われています。今回は、糖尿病患者さんの高血圧治療と血圧管理についてうかがいました。

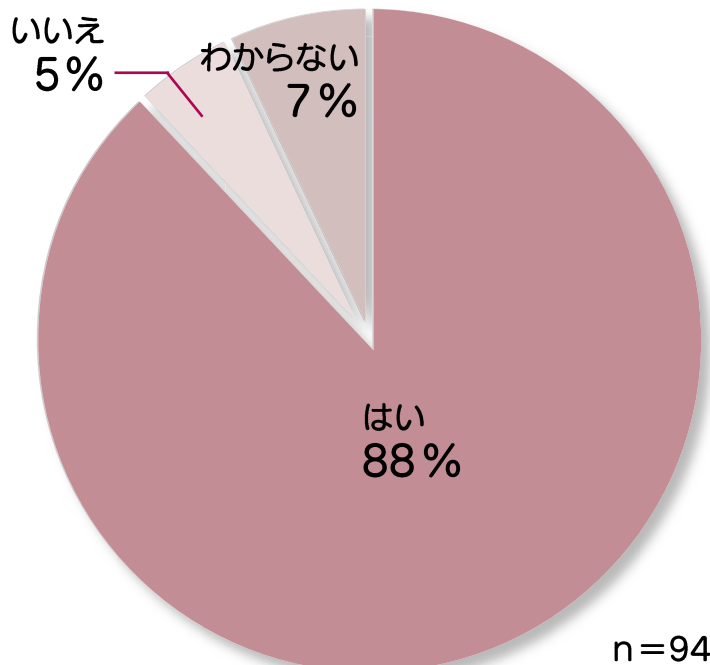
[回答数：医療スタッフ94(医師28、看護師27、准看護師1、管理栄養士20、薬剤師9、臨床検査技師4、理学療法士1。うち日本糖尿病療養指導士17、健康運動指導士1)、患者さんやその家族324(食事療法を行っている219、運動療法を行っている198、経口薬を服用している151、インスリン療法を行っている174/重複回答)]

高血圧を合併するリスクについて指導を行っているのは約9割と、糖尿病患者さんへの高血圧指導は基本であり、受診時の血圧測定も85%が毎受診時もしくはこまめに実施しているとの回答でした。

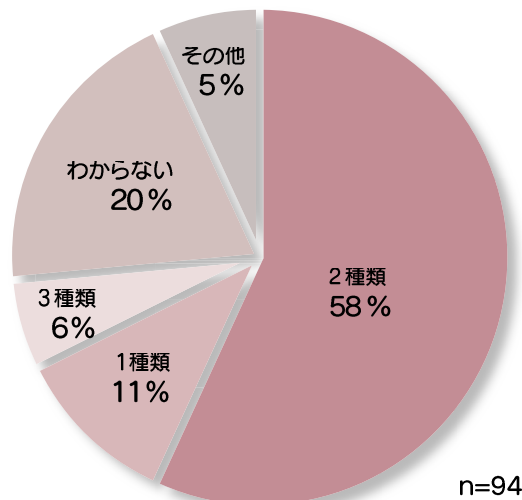
降圧薬の処方(下図)は、約6割が薬剤2種類、約1割が薬剤1種類と、コンプライアンスを考慮してか少数投与がスタンダードのようですが、糖尿病腎症や透析治療のある患者さんなどは「多剤投与しても血圧コントロールが困難なことがよくある」という声も。また、今年度から積極的な活用が予測される「後発薬(ジェネリック医薬品)」への変更については、下図のように「積極的に勤めたい」というスタッフが13%と少数で、患者さんの希望がないとなかなか活用の機会が広がらない可能性も予想されます。

また、家庭における血圧管理について、家庭血圧の測定を約9割のスタッフが

積極的に勤めているとの回答でしたが、多くの患者さんが、高血圧と糖尿病は別問題という認識を持っている「血糖コントロールと比べて患者さんの血圧コントロールに対する関心が低い」といった懸念の声が多く聞かれました。



Q. 糖尿病患者さんに薬物療法を行う際、 降圧薬は何種類使用することが多いですか？



Q. 現在、使用している降圧薬を「後発品」に 切り換えることに対してどうお考えですか？

